歴史ウォーキング

富里市では，市をあげて「早寝・早起き・朝ごはん」運動を推進しています。
早朝の時間に散歩を行うことによる生活リズム向上を目指して，また，ふるさとを知る一環として，散歩をしながら市内の歴史にふれる「歴史ウォーキング」を行いました。

◎中沢・新橋コース

麻賀多神社（新橋地区）

鳥居をくぐり，石段を上がると，山の中段に額堂（がくどう）があり，毎年１月２０日の午後に湯立て（お湯を笹の葉で参詣人などにふりかけて，無病息災を祈る行事）が，行われます。さらに上がると神社の本殿があります。

下総板碑（しもうさいたび）（新橋観音堂境内）

板碑（板石塔婆）には下総形板碑と武蔵形板碑があり，下総形板碑は千葉県東北部から茨城県南東部に分布しています。新橋観音堂の下総型は，この板碑の北限を示す貴重な資料と言われています。

谷津田の風景と，説明に聞き入る参加者のみなさん。

宝篋印塔（中沢　昌福寺）

宝篋印塔は，塔の中に宝篋院陀羅尼経を納めたことからおきたとされています。

この宝篋印塔は新橋の畑の中から発見されたもので，基礎部に応永３３年（１４２６年）と年号が刻まれ，市内で年号が確認できる最も古いものです。

ウォーキングを終えて，みんなで記念撮影しました。

◎立沢・高野コース

江戸時代，富里市は野馬の放牧場でした。
放牧されていた野馬を捕獲するために，土手によって，いくつもの部屋を作り馬の選別を行った施設が捕込（とっこめ）です。

高野にある六地蔵・六観音は，千葉県内に唯一現存するもので，銘文から享保３年（１７１８年）に造立されたことが判明しており，笠付角柱型と呼ばれる形態をしています。

富里の低地のほとんどが谷津田です。
曲がりくねった谷津田，そしてそれに沿うように雑木林があります。このような風景はどこにでも見られ，時には錯覚を起こすことさえもあります。